

平成 26 年 度 学 校 評 価

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>&lt;教育課程&gt;                      (1)基礎学力及び自己実現に必要な学力を身に付けることができる教育課程を編成する。                      (2)あらゆる教育活動を通じ、考える力・説明する力・課題を解決する力・人間関係を形成する力を育成する。</p>	<p>(1)学校としての「育てたい生徒像」を策定し、その実現に向けた教育課程を編成する。                      (2)①授業以外の場（部活動や委員会活動）において考える力・説明する力・課題を解決する力・人間関係を形成する力を育成するスキルを身に付けるための、職員研修会を実施して、成果を生徒に還元する。                      ②外部講師を招いて職員・生徒・保護者対象の進路ガイダンスを行い、個々の進路希望に沿った学習活動を支援する。                      ③放課後・長期休業中などを利用して、講習・補習の充実を図り、学力のより確実な定着を図る。</p>	<p>(1)「育てたい生徒像」及び生徒のニーズをふまえたカリキュラムになっているか。                      (担当教員による評価)                      (2)①部活動や委員会活動を通して、考える力・説明する力・課題を解決する力・人間関係を形成する力がついたか。(担当教員による評価)                      ②進路希望に沿った学習支援が成されたか。(生徒・保護者アンケート)                      ③講習・補習の講座数や参加生徒数が増えたか。(講座数・参加人数)</p>	<p>(1)大学進学希望のニーズをふまえた教育課程を編成することができ、第2学年までに基礎学力を幅広く付けられるようにした。                      (2)①各種部活動や委員会活動の場で、自ら企画・運営する場面が増え、思考力・表現力・コミュニケーション力が付いた。                      ②外部講師を招いての職員、生徒の進路ガイダンスを行い、個々の進路希望に沿った学習活動を支援した。                      職員ガイダンスのデータや内容は、三者面談等にも利用され、きめ細かいキャリア支援が実施されつつある。                      ③夏期講習の参加人数が267名から151名に減少した。</p>	<p>(1)選択科目の幅を狭めてしまったので、その分より多くの選択科目を設置できるかが今後の課題である。                      (2)①今後は、部活動や委員会に加入している生徒が、部活動や委員会活動に消極的な他の生徒の前で成果発表をする場を設けて、部活動や委員会活動に参加する意義が全校に伝わるようにする。                      ②生徒によりガイダンス後の変化に差がある。より多くの生徒により刺激を与えられることと、ガイダンス後の教員の指導等の充実が課題である。                      ③夏期講習の設置講座数を増やすとともに、日程も生徒がより参加しやすくなるよう調整をする。</p>	<p>(保護者)                      大学入試に対応する教育課程になったのはよいが、大事なのは教師の指導である。指導体制の充実を求めたい。                      (学校評議員)                      生徒にとっては選択科目が将来を決めるといってよい。特色のある科目をもっと外部にアピールするようにしたらどうか。</p>	<p>(学校評価)                      大学進学を希望する生徒が多数いることをふまえた教育課程の改訂を行った結果、基礎学力の充実と活用する力の伸長を図る態勢はできあがった。今後は、多様な生徒にきめ細かく対応する態勢を整えていく必要がある。</p> <p>(改善方策等)                      選択科目の幅を絞った代わりに選択科目自体を増やす必要があり、生徒の進路希望の実現に最大限配慮した選択パターンを構築していく。</p>

<p>&lt;生徒指導・支援&gt; (1)様々な場面で地域社会の一員としての規範意識を育む。 (2)校内教育相談体制の充実を図る。</p>	<p>(1)①「挨拶」「アイコンタクト」「リスペクト」を推進する。 ②年間を通して、遅刻防止指導を行う。 ③自転車乗車マナー指導、制服着用指導を行う。 ④生徒相互に規範意識を高めさせるために、集会での整列を生徒自身にさせる。 (2)①教育相談コーディネーターや学校スクールカウンセラーを中心としたケース会議やカウンセリングの方法を整備する。 ②養護学校の分教室と連携して、研修会を行う。</p>	<p>(1)①～④の取組により、地域社会の一員としての規範意識を育むことができたか。(指導件数、近隣住民からの苦情件数、担当教員による評価) (2)①、②の取組により、校内教育相談体制の整備が進んだか。(担当教員による評価)</p>	<p>(1)指導件数は増えているが、これはよりきめ細かい指導を徹底した結果であり、下半期(10月～3月)は特別指導がほとんどなく、その効果が表れている。また、制服・頭髪の指導が着実に効果を見せて、外部評価でも高い評価を受けた。 (2)校内教育相談体制を整備し、生活支援グループ・養護教諭・カウンセラーだけでなく、当該生徒に関わる教員にも積極的に体制に参画できるように修正した。</p>	<p>(1)制服・頭髪指導においては全校である程度統一した指導体制を整える必要があり、学年と担当グループとの連絡を密にする必要がある。 (2)相談体制が整った今、次の段階として、教育相談が必要な生徒の把握を速やかにできる体制作りが望まれる。</p>	<p>(保護者) ・身だしなみ指導や挨拶促進指導の効果は目に見える形で出てきている。 ・自転車乗車マナーを中心とした交通安全指導をさらに進めて欲しい。 (学校評議員) ・学習環境の整備に力を尽くされている様子がうかがわれ、授業の様子も落ち着いている。</p>	<p>(学校評価) 携帯電話の使用、制服・頭髪の指導が着実に効果を見せて、生徒も集団として落ち着いて学習や部活動に集中できるようになった。教育相談態勢も整いつつあるので、今後は相談が必要な生徒の把握に取り組んでいく。 (改善方策等) 生徒に関する情報交換ができる機会を定期的に設けたり、その情報交換の場に参加する教員のメンバーも精選するなど、教員が組織的に問題行動などを未然に防いでいく。</p>
<p>&lt;学習指導・授業改善&gt; (1)“考える”生徒の育成をめざし、“考える”授業を全職員で組織的に展開する。 (2)教科指導の中で卒業までに身に付けるべき学力とスキルを明確にして、学習指導に取り組む。</p>	<p>(1)①基礎的な知識技能を身につけさせることをねらいとした授業においても、実習や体験学習的な授業スタイルを取り入れる。 ②授業改善のためのワークショップ型の研修会を実施し、各教科で「思考力を伸ばすためのツール」を作成する。 ③生徒の学習成果を発表する場を設ける。 ④チャイム同時の授業開始を教員・生徒ともに徹底する。 (2)生徒に身に付けさせたい力を明確にした、単元指導計画や年間学習指導計画を作成する。</p>	<p>(1)①～④の取組により、基礎的な知識・技能の定着とともに思考力・判断力・表現力が高まっているか。(各教科による評価) (2)生徒に身に付けさせたい力を明確にした単元指導計画や年間学習指導計画を作成できたか。(年間指導計画集)</p>	<p>(1)学習意欲は高まっており、基礎的な知識・技能は着実に付いてきている。また、思考する意欲も授業中で見られるようになった。 (2)研究授業を全教科で実施して、その際に生徒に身に付けさせたい力や思考力を伸ばすための言語活動を明確にした単元指導計画を作成したが、作成に当たっては教科会での話し合いの上で作成するようになった。また、年間指導計画でも、一年間を通して、単元ごとの評価の観点と評価規準を明確にするなど、書式を工夫した。</p>	<p>(1)授業中において身につけさせた思考力が、的確な言語や図・資料で表現できるようにするのが次の段階なので、次年度はそこも含めた学習指導計画が必要となるので、学習成果を発表する機会を設ける。 (2)評価規準を年間及び単元ごとに定めるようになったが、その評価方法の研究に着手する。</p>	<p>(保護者) 生徒たちの大学入試の希望に応えられる態勢を引き続き取ってほしい。 (学校評議員) 取組は評価できる。引き続き授業改善を進めてほしい。</p>	<p>(学校評価) 各教科単位による授業改善への取組については、授業における生徒の様子を見る限り成果が出ており、今後なお一層の思考力・判断力・表現力を伸ばす指導が望まれるが、その授業工夫が生徒にどのように身についたかという、評価方法の研究にまでいたらなかった。 (改善方策等) 改善された授業によって、生徒にどのような学習成果が出たかを、「学習成果発表会」の形で検証し、指導・評価の研究につなげる。</p>

<p>&lt;キャリア教育&gt;  (1)体系的で未来志向のキャリア教育を実施し、生徒の進路実現を支援する。  (2)部活動指導や学校行事等を通して、積極的に社会に参画し、改革意欲を持った生徒を育成する。</p>	<p>(1)①講演会・上級学校見学会・上級学校との連携による模擬授業・分野別説明会などを実施する。  ②総合的な学習の時間において自己の進路を探究する取り組みを行う。また、イノベーションを担う人材の育成や産業界における新成長分野への理解などを目的とした取組を計画的に実施する。  (2)①部活動加入率を上げる。  ②学校行事等の計画・準備・運営において、生徒に積極的に参加させる。</p>	<p>(1)①進路意識が充実し、それに伴う行動ができるとともに、自己実現ができたか。(進路希望と実績の比較、オープンキャンパスや1日体験等への参加人数、ワークシート記述分析による担当教員の評価) ②自分の適性を知り、情報収集をとおして必要な知識の定着や能力の育成が図られたか。(ワークシート・振り返りシート記述分析による担当教員の評価)  (2)①部活動加入率が上がったか。(学年ごとの数値比較) ②の取組により、社会参画意欲が高まったか。(担当教員による評価)</p>	<p>(1)①②2学年の夏季休業中におけるオープンキャンパスは、9割以上の生徒が複数校参加し、学校調べだけでなく比較検討することにより、進路意識を深めた。  1学年では、起業家講演会や卒業生講演会等とともに、大学等の進路希望別講演等での情報収集をとおして、進路関係の知識・理解の定着が図られた。  全学年を通して、インターシップの参加者が増加(21名)し、進路意識の向上が見られた。  3学年では、成績上位者の中での一般受験者が増え、本当に希望する大学への合格者も増えてきた。  (2)部活動の成果(成績)着実に向上しており、部活動に加入している生徒の意識も高い。しかし、加入率が上がったとは言えないという数字が出ている。</p>	<p>(1)①②行事後のワークシート等の記述は、ほとんどが好評であるが長続きしていない者が多いのが実情である。よい経験を学校生活に生かし、積極的に自己実現を目指す割合を多くしていくことが課題である。  (2)新1年生入学後2週間を部活動加入促進期間と銘打ち、オリエンテーションや見学会を正課時間に学年行事として組み入れて、部活動の実態に触れてもらえるようにする。</p>	<p>(学校評議員)  部活動単位でのボランティアが盛んになっている様子がうかがえ、生徒達が精神的に成長していることは高く評価できる。</p>	<p>(学校評価)  「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育の実践は、3年間を見据えた計画立案・授業実施を通して、生徒の進路実現に大きな影響を与え、非常に高い成果が出ている。また、外部講師の活用は、生徒の進路意識の高まりに貢献している。  部活動の活性化については、実績・成果は上がっているものの、生徒への浸透度という点においてはまだ工夫の余地がある。  (改善方策等)  「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育の実践については、外部機関・講師をより積極的に活用していくことを通して引き続き取組を進めていく。  部活動の活性化については、生徒・教員問わず全校あげての取組を進めていく。</p>
---	--	---	---	---	---	--

<p>&lt; 地域等連携 &gt;  (1) 地域社会との交流や校種間連携を深め、生徒の校外活動を推進する。  (2) 学校からの情報発信力を強化する。</p>	<p>(1) ① 生徒・職員ともに、地域に根ざした学校作りをめざした地域貢献活動を行う。  ② 地域が主催する行事への、本校生徒の部活動単位などでのボランティア参加を促す。  ③ 地域・分教室と連携した防災体制の整備を行う。  ④ 授業や部活動において、近隣小・中学校との交流を行う。  (2) ① 学校説明会や中学校訪問などの機会に積極的に情報発信を行う。  ② ホームページの更新を必要に応じて行い、情報発信を進めていく。  ③ 学年通信、クラス通信などを適宜発行する。  ④ メール便などを活用して、保護者への情報伝達を充実したものにす。</p>	<p>(1) ① 地域との円滑な連携が行えたか。(担当教員による評価)  ② ボランティア参加生徒数の数値はどれほどか。(参加生徒数の数値)  ③ 具体的な防災体制が整備されたか。(担当教員による評価)  ④ 近隣小・中学校との交流ができたか。(交流記録)  (2) ① 本校の取り組みの内容について、十分に説明し、本校への関心を高められたか。(担当教員による評価)  ② ホームページの閲覧により、本校への理解が進んだか。(担当教員による評価)  ③、④の取組により保護者に情報が適切に伝わったか。(保護者アンケート)</p>	<p>(1) ① 文化祭において、地域に伝わる伝統文化(凧)の伝承に携わる方々と本校生徒との交流の場を設けるなど、積極的な交流をすることができた。  ② 夏期休業中のボランティア、インターシップの参加生徒が 20 人を超え、また吹奏楽部が福祉施設への訪問演奏の機会も増えるなど、地域への参加意識が高まった。  ④ 家庭科や国語科などで、近隣小学校への出前授業や高校への招待などが盛んに行われた。  (2)  ① 学校説明会・中学校および塾訪問等において、中学生へ本校の情報を的確に伝えられるよう配布資料、説明内容等を精選し、工夫に努めた。その結果、学校説明会等の参加者も昨年度を上回り、本校への関心が高まっていることがうかがえる。  ② ホームページの更新を適宜、迅速に行い、スピード感のある情報発信を行った結果、本校の情報が的確に伝わっていることが学校説明会等でのアンケートによって示された。  ④ メール便などを活用して、保護者への的確な情報伝達に努めたが、メール便の届かなかった家庭が全校のうち数件であることにより、保護者への的確な情報伝達がうかがえる。</p>	<p>(1) ① 地域の伝統文化と触れ合う機会を文化祭だけでなく、授業や他の学校行事の中でも設けていく。  ② ④ 部活動や授業クラス単位での近隣の学校との交流を促進していく。特に中学校との連携を密にしていきたい。  (2) ① 中学校・塾訪問をさらに全職員で取り組めるよう工夫・改善に努める。  ② ホームページの担当者を組織的なものに改善する。  ④ 業者のメール便廃止の現状を把握し、影響を受けないよう工夫する。</p>	<p>(保護者)  メール便による、保護者への直接の情報伝達は非常にありがたかったので、引き続きお願いしたい。  (学校評議員)  ・近隣のコンビニ前では交通事故が 27 年 1～3 月で 7 件起きている。危険の芽は地域にもあるので、注意喚起の点でも地域で連携していきたい。  ・文化祭における地域住民との交流企画は高く評価できる。  ・体育館の耐震工事の関係における施設・設備の借用要請にも地域として積極的に応えていきたい。</p>	<p>(学校評価)  各種行事における地域との連携行事も増え、生徒の地域社会の一員としての意識も着実に高まっている。部活動の地域貢献も地域から一定の評価を得ているものの、授業の取組としての地域社会との連携が次の段階である。  (改善方策等)  例えば、授業内で福祉・医療関係の単元を学習する機会に地域社会との関係性に触れるなど、「地域社会から学ぶ」実践の可能性などを、職員研修会で取り上げる。</p>
---	--	--	--	---	--	--

<p>&lt; 学校運営・学校管理 &gt;  (1) 防災体制を充実させ、地球環境に配慮した教育環境を整備する。  (2) 学校運営の成果について検証し、信頼される学校づくりを行う。</p>	<p>(1) ① 防災に必要な備品を点検し、特に地域の拠点になることを想定した防災計画を検討する。  ② 実際の急な災害を想定した防災訓練を生徒防災委員会中心にして分教室と合同で実施する。  ③ 校内の環境整備として、ごみの分別、清掃活動を推進する。  ④ 地域・通学路清掃を実施する。  (2) ① 喫緊の課題を理解、解決するためのワークショップ型の職員研修会を実施する。  ② 不祥事防止に向けた各種マニュアルに沿った行動を実践する。  ③ 学校運営の成果についてのアンケートを取ることで検証する。</p>	<p>(1) ① 地域の拠点になることを想定した防災計画が作成できたか。(担当教員による評価)  ② 非常時に有効な防災訓練ができたか。(担当教員による評価)  ③・④の取組により、生徒の美化意識が高まったか。(担当教員による評価)  (2) ① 喫緊の課題に対応するのに役立ったか。(教員アンケート)  ② 不祥事防止を意識した行動実践ができたか。(教員アンケート)  ③ 学校運営の取組に成果があったか。(担当教員による評価)</p>	<p>(1) ① 防災計画を整備し、全職員に周知・徹底を行った。  ② 全県一斉実施の「シェイクアウト」訓練を含めて、計画通りの防災訓練を行うことができた。また文化祭においても、防災に関する体験コーナーを設けて、生徒・保護者・来校者に体験して頂き、その取組が高く評価されたことがアンケートからわかった。  ③・④ 学校行事の直前の校内一斉清掃では、全校生徒・職員が一致協力して清掃に取り組むことができ、行事前日放課後には部活動の生徒が自主的に清掃状態確認を行うなど、生徒の意識の高まりを見ることができた。  (2) ① 「確かな学力」を向上させるための授業への改善が喫緊の課題であるとの意識が高まり、職員研修会を通じて各教員の授業が改善されつつある。  ② 職場内の人間関係をよりよくしていくことが事故・不祥事防止に役立つという意識を向上させることができた。  ③ 教科・グループ・学年への帰属意識の高まりが見られ、業務がスムーズに思考するようになった。</p>	<p>(1) ① 職員の入れ替わりが多いことが予想されるので、防災計画の中で、特に人員配置と緊急時業務内容のスムーズな引き継ぎが行われるようにする。  ② 防災訓練については、より実践的な訓練を目指すために、予告なしでの防災訓練を取り入れることを模索する。また、文化祭における体験コーナーも拡充していく。  ③・④ 来年度は月1回の「美化の日」を設けて、より一層の全校一丸となった美化意識向上に努める。  (2) 「授業改善」と「不祥事防止」が本校における喫緊の課題であることを改めて啓発するとともに、職員の自発的な研修の機会の設定を働きかける。</p>	<p>(学校評議員)  文化祭における地域住民との交流企画は、地域の住民にも防災の大切さを教えていただいたと思う。</p>	<p>(学校評価)  防災計画を整えて、年間計画通りの防災訓練を行うことができた。特に今年度は生徒に予告なしの防災避難訓練を行い、その時の生徒の様子を見ると防災意識の高まりが感じられる。今後は「防災」「美化」の関連性の高さを生徒に考えさせることが望まれる・  (改善方策等)  引き続き年間防災訓練を着実に実施するとともに、訓練時には校内美化の問題も生徒に考えさせる。月1回の「美化の日」を設けて、より一層の全校一丸となった美化意識向上に努める。  信頼される学校づくりのために、「授業改善」と「不祥事防止」が本校における喫緊の課題であることを改めて啓発するとともに、職員の自発的な研修の機会の設定を働きかける。</p>
--	---	---	---	---	---	--